

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
市役所づくり	1	市の予算について	共通	税収の増加、メリハリのある支出、そして官民の連携が挙げられていましたが、このうち税収の増加に向けて、何か具体的な腹案のようなものをお持ちでしょうか。	企業誘致と同様に人口を増やすことが重要です。印西市の人口は頭打ちの傾向にあり、新たな住宅地の確保が課題です。成田空港の機能強化により雇用や居住ニーズが高まるため、その流れを捉えて人口の維持・増加を図ります。 また、子育て世代に選ばれる街として、第2子以降も印西で育てたいと思ってもらえる環境づくりが重要と考えています。短期的にはコスト増ですが、長期的には人口維持につながります。 企業誘致では、データセンター依存から脱却し、成田空港の近接性を活かして外資系企業などの誘致を目指しています。場所の確保も含め時間はかかりますが、着実に進めていく方針です。	—	企画政策課 経済振興課
インフラ・防災	2	公共交通について	印旛	印旛学園線もフレイカの対象になりますか。	対象になります。	—	交通政策課
インフラ・防災	3	公共交通について	共通	ふれあいバスについてですが、昨年、改善センターで陳情をさせていただき、市長ともお話しする機会がありました。その際、広報で酒々井・印旛線がふれあいバスではなく、70歳以上が無料になるという記事を読み、「よかったな」と感じました。 私も80代になっておりますが、ボランティア活動をいつまで続けられるかと考える中で、バスに乗れるようになれば、活動を続けていきたいと思っています。今回の制度がその第一歩だと思い、本日はお礼を申し上げたくて参加させていただきました。 ふれあいバスが全線で利用できるようになることが私の願いです。どうぞよろしくお願いいたします。	印旛学園線は私の地元である六合地区や宗像地区を通っています。しかし、地元の方々はふれあいバスをあまり利用していないのが現状です。今回ご意見をいただいたのは、ほぼ学園台の方々からのみで、他の地域の方々は今でも地域内で乗り合いをしながら、さまざまな場所へ移動されています。 そうした方々にとっては、個別の交通手段、つまり分かりやすく使いやすい方法のほうが利便性が高いのだと思います。そこで現在、タクシー助成の導入を検討しています。バスが入りにくい地域も多くありますので、皆さんが「行きたいときに、行きたい場所へ、できるだけ早く行ける」ことが最も重要だと考えています。 そのため、現在最適な交通計画の再構築を進めており、改めて皆さんと議論を重ねていきたいと思っています。 交通の課題は全国どこでも共通しており、非常に悩ましい問題です。ただ、10年もすれば自動運転車が安価に利用できる時代が来ると考えています。日本では導入が遅れていますが、中国などではすでにタクシーが完全に自動運転化されており、人が運転するよりも安価になっている例もあります。 そうした未来が日本にも訪れるはずですので、それまでの間は行政がしっかりと支え、皆さんの利便性向上のために努力していくことが重要だと考えています。	—	交通政策課
インフラ・防災	4	公共交通について	印旛	ふれあいバスについてですが、高校生の子どもがいます。現在、フレイカは70歳以上が対象となっていると思いますが、子どもたちは利用できないのでしょうか。 子どもは私立高校に通っており「なのはなバス」を利用しています。ただ、2年ほど前から最終便の時間が早くなってしまい、部活動を終えてからでは間に合わず、私が仕事を終えてから迎えに行くことが多くなりました。 中学から高校に進学して運賃も上がったのに、利用回数は減ってしまい、正直なところ不便さを感じています。	これも、すぐにお答えができず申し訳ないのですが、非常に重要な課題の一つだと認識しています。 印旛日本医大駅から京成佐倉駅へ向かう路線についてですが、誰が一番使っているかという点、通学する子どもたちなんです。特に公立の高校に通っている生徒が多くて、私立の場合は最近バスを出してくれる学校も増えてきていますが、遠方の学校ではまだ対応できていないところもあります。 たとえば、佐倉高校に通っている子たちは、制服を着て印旛日本医大駅でバスを待っている姿をよく見かけます。そういった状況も踏まえて、今回の公共交通計画の見直しでは、ここを大きな論点の一つとして検討しています。 引き続き、子どもたちの通学の助けになるような方策を考えていきたいと思っています。	—	交通政策課
インフラ・防災	5	公共交通について	共通	ふれあいバスは臨時便は出ないですか。	印旛学園線は民間のバス会社が運営しているので、そこを邪魔してはいけないという事情があります。実際、民間路線にも市から補助額の助成をしていて、予算を使って路線を維持しているんです。 そう考えると、他のやり方も考えていかなければならないと思っています。	—	交通政策課
インフラ・防災	6	消防団について	共通	消防団についてです。旧来地区では消防団の存在や区からの支援などが広く知られていますが、いには野や牧の原、千葉ニュータウンなどの新しい地域では、そもそも印西市に消防団があるのかどうかすら知られていない状況です。募集の有無も周知されおらず、結果として旧来地区では毎回出動できる人が2人しかいない、あるいは団が解散してしまうといった問題が起きています。 今後、ニュータウン地区にも消防団の活動を広げていく必要があると感じています。	私自身も短期間ですが消防団に所属していた経験があり、仲間も多くいますので、感覚としては理解しています。 ニュータウン地区で消防団を新たに組織するのは、正直難しいと考えています。消防団には地域に根差した“文化的な要素”が強く、土着的な背景があるためです。むしろ、ニュータウンでは“自主防災組織”のような形で、防災力を高めていくことが現実的だと思っています。 一方で、既存の消防団も担い手不足が深刻です。サラリーマン世帯が増え、自営業の若者を中心とした従来の制度設計が合わなくなってきています。制度そのものが限界に近づいていると感じています。 短期的には、団員の負担を軽減することが重要です。たとえば、出初式を屋外で大規模に行うのではなく、文化ホールで簡素に実施するなど、負担を減らす工夫を進めています。 今後は、消防団制度の見直しも含めて、地域ごと、あるいは市全体で災害や火災に強いまちづくりをどう進めていくかを、現実的な視点で考えていく必要があると感じています。	—	防災課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
子育て・教育	7	子育て支援・保育園の連絡手段について	共通	「妊婦さんのトリセツ」という本があるんですけど、それを読んでもらえると、妊婦さんをどう扱えばいいかっていうことが、男親として勉強になると思うんです。今は学べる機会がほとんどなくて、YouTubeを見るくらいですね。 私は生まれは印西ですが、流山に住んでいたことがあります。やっぱり印西のほうがいいなって思ってたきました。流山市にも産後ケアがありました。 流山の強みは、つくばエクスプレスがあって交通の便がすごく良いところだと思うんですけど、その分、人が増えすぎて交通が危なくなってしまう。印西は落ち着いていて、どちらにも良いところがあると思います。 流山や都内の友人たちは、保育園の連絡帳が紙ではなくデジタル化されていて、便利だと感じています。私も子どもを保育園に預け始めたのですが、紙の連絡帳だと、子どもがどんな様子で過ごしているのか、どんな遊びをしているのか、誰と関わっているのかが分かりづらいです。 先生によっては丁寧に書いてくれる方もいますが、忙しくて書けないこともありますし、親も朝はバタバタしていて、なかなか書ききれません。でも、もしアプリで管理できれば、通勤中や帰宅途中に子どもの様子や写真、健康状態、食事の有無などが確認できて、夜ご飯の準備などにも役立ちます。 保育園の先生にとっても、親にとっても、アプリのほうが連携が取りやすく、子どもの安全にもつながると思います。今通っている保育園はまだ紙のままですが、アプリ化されるだけで大きく変わると感じています。	実は市立の保育園がいくつかありまして、そこでは今年から連絡帳がアプリになったんです。 先日、保育士の職員の方々と話す機会があったんですが、そのアプリが導入されてから、先生方もすごく楽になったという話をされていました。特に良い点として挙げられていたのが、写真を共有できることです。手書きではなかなか伝わらない部分も、写真を送れることで保護者にしっかり伝えられるようになって、すごく助かっているとのことでした。 まだ紙の連絡帳を使っている保育園もありますので、今後、全市的に展開できないかを少し検討してみたいと思っています。	—	子ども家庭課 保育幼稚園課
まちづくり	8	公園のPFIの導入について	共通	公園のPFIについてですが、維持管理の話だけでなく、防災や子育て、学童クラブなども含めて、公園PFIと一緒に整備できたらいいのではないかと考えています。 例えば、スターボックスのような施設に人がいれば、公園の見守りにもなりますし、何かあったときにはその施設を活用することもできます。民間だけで完結させるのではなく、子育て支援や防犯の視点も取り入れた、PFIを活用した総合的な取り組みができるのではないかと考えています。	おっしゃるとおり、公園に民間施設を入れるなら、公的な目的も必要だと思っています。全国でスターボックスばかりになっている現状を見ると、個性のある地域づくりが求められます。 千葉市の千葉公園では、BMXエリアやカフェに加え、放課後の子どもたちの居場所として「寺子屋」のような施設もあり、地元企業も関わっています。印西でも、子育て支援や防犯の視点を取り入れた公園づくりを進めたいと思っています。 また、炊き出し訓練を兼ねた夏祭りのようなイベントも、公園で実施できれば地域の防災力向上にもつながります。市民と一緒に町を守る仕組みづくりを進めているところです。	—	都市整備課
まちづくり	9	物品の調達について	共通	防犯カメラの話で、今実際に台湾と中国の間で海底ケーブルが切断されるような事態も起きていて、情報系の問題が有事の際に非常に気になるところです。 市でも防災のために各所にカメラを設置していると思いますが、そのカメラが中国製ということで、米国では公共機関での採用に注意するよう警告が出ています。というのも、中国製のカメラには、インターネットを通じて映像情報を自動的に中国本国へ転送する仕組みが、ハードウェアレベルで組み込まれているという指摘があるんです。 つまり、有事の際に何もなくても、現地の映像情報が中国側に送られてしまう可能性がある。ハマスとイスラエルのような状況で、情報源が切断されたり、逆に現場の映像がすべて筒抜けになるような懸念があります。 そういった意味でも、中国製のカメラの採用には慎重になるべきだというメッセージが、米国では出されています。そのあたり、市としてもぜひ考慮していただきたいと思います。	公共の調達については、そこはしっかり考えていきたいと思います。 現在、世界的なシェアで見ると、中国製が過半数を占めている状況で、日系メーカーではパナソニックさんなどもありますが、実際にはシェアがかなり小さいという現実があります。公共分野においては、詳細は申し上げませんが、ご指摘のような懸念については私も理解しているところですので、慎重に検討していきたいと考えています。 一方で、ご家庭で設置されているカメラについては、行政が個別に調整するというのは少し違うのではないかと考えています。そこは、皆さんそれぞれのご判断にお任せしたいと考えています。	—	財政課
まちづくり	10	まちづくりについて	印旛	どうしたら印旛地区へ若い人が入ってくれますか。先ほどの交通の便の話にも関連しますが、最近この地域に引っ越してくる方が増えてきています。ただ、結局のところ移動手段が車しかないのが現状です。バスは一応走ってはいるのですが、吉高地区に停車するのは1日に5回だけで、しかも午後3時には運行が終わってしまいます。これでは、住みたいと思う方はなかなか増えないのではないかと思います。	私が重要だと考えているのは大きく2点あります。 一つは「移動のしやすさ」です。高校生はもちろん、小中学生も含めて移動しやすい環境を整えることが必要です。 もう一つは「教育」です。子どもが少ない学校に通わせたいと思う保護者は少ないですが、少人数だからこそできる教育もあります。たとえば六合小学校では、かつて裏山にアスレチックフィールドがあり、自然の中でのびのびと学べる環境がありました。こうした少人数・自然環境を活かした教育は、世界的にも注目されています。これを地域の強みにしていくことが、移住・定住の促進につながると考えています。 また、印西市全体では人口が増えています、在来地区では減少傾向にあります。今後は、そうした地域への移住・定住を支援する専門チームが必要です。私は「移住定住コーディネーター」のような役割を政策に掲げており、地域とのつなぎ役として行政に関わることが大切だと考えています。 さらに、独身の方からは「楽しめる場所が少ない」「働く場所がない」といった声もあります。実際に、働く場を求めて地域を離れた方も多いと聞いています。こうした課題に対しては、新たな産業の誘致が重要です。成田空港の機能強化に合わせて、産業の立地や雇用の創出を進めていきたいと考えています。 公園などの整備も含め、印西に住み続けたいと思える環境づくりを進めていきたいと思っています。	—	企画政策課 交通政策課 指導課 市民活動推進課 経済振興課 都市整備課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
まちづくり	11	公共施設の活用について	平賀	学園台2丁目にある旧コミュニティセンターについてですが、雨漏りのため返還されたと聞いています。ただ、修繕すれば十分活用できる施設だと思っています。 今後の使い方として、孤立しがちな高齢者のためのコミュニティカフェやクールスポット、アフタースクール、子ども食堂、手芸などの活動スペースとして活用できるのではないかと考えています。 自助・公助に加えて「共助」の視点から、こうした地域の活動拠点に対して施設の補助をいただけると、民間と行政が協力して地域の課題を補完できると思います。平賀地区でもこうした取り組みが可能になるよう、スペースの確保が重要です。ぜひ、こうしたアイデアを今後の計画に取り入れていただきたいです。	今、ちょうど市全体の公共施設の活用について検討を始めているところです。市が所有する場所は多くあり、今回のような施設だけでなく、空いている私有地なども含めて、民間の方々と連携しながらどう活用していくかを考えています。 そのための人員配置も行いましたので、今回のご提案もその検討案件に加えさせていただき、今後の活用方法について考えていきたいと思います。	—	資産経営課
市役所づくり	12	DXの推進について	共通	子どもは現在高校ですが、小学生の頃からパソコンが好きで、独学でプログラミングを学び、ゲームを作ったりしています。先程市でもデジタル化を進めるというお話がありましたが、大学受験が控えていて、最近是一般入試よりもAO入試や推薦入試が主流になってきています。その際にアピールできるような取り組みが必要だと感じています。 できれば、市のデジタル関連の活動に関わらせていただけるとありがたいです。本人にも確認したところ、「楽しそうだね」と言っていました。たとえば、保育園のアプリ開発やホームページの制作補助など、そういった活動に参加できる機会があればぜひお願いしたいと思っています。	行政としては公平性の観点から、広く募集する形になると思いますが、実は印西市はDX（デジタルトランスフォーメーション）に前向きな自治体です。DX推進課も積極的に取り組んでいます。 市内のフリースクールでは、通っている生徒が自分で入退勤管理のシステムを作った事例もあり、サイボウズという企業が伴走支援してくれています。そういった取り組みもあるので、可能性はあると思います。 また、現在、放課後に子どもたちがデジタル教育を学べる場の整備を進めているところです。将来的には、小中学校から高等教育まで一貫して学べる環境を整えたいということも考えています。 お話の内容については、今後の参考とさせていただきます。	—	DX推進課
健康・福祉	13	高齢者等の見守り支援について	共通	私の周りでは50代前後の方が多く、親が一人暮らしだったり持病を抱えていたりするケースもあります。私自身も日常の仕事をしている中で、急な事態が起きたときにどう対応すればいいか不安を感じています。 近所に頼れる方がいれば安心ですが、そういった方がいない場合もあります。また、民生委員や町内会の方が見守りやパトロールをしてくださっていますが、活動時間が限られており、対応しきれない場面もあると感じています。さらに、民生委員の方々自身も高齢化が進み、後継者不足に悩んでいるという話も聞いています。 そうした中で、我々中間世代が安心して暮らせるまちづくりをお願いしたいと思っています。パトロールや見守り活動の担い手が減っている現状を踏まえ、先程市長がお話しされていたDXやAIなどの技術を活用していただけるとありがたいです。 印西市の創業塾の方々と話す機会がありますが、見守りアプリや地域の集いの場の整備など、保育園や高齢者施設を連携させて、子どもと高齢者を一緒に見守れるような仕組みがあると、身内の少ない家庭でも安心できると思います。 子育て支援ももちろん大切ですが、シニア世代や我々中間世代が安心して働き、暮らせるまちづくりもぜひ進めていただきたいです。よろしく願いいたします。	おっしゃるとおり地域の高齢者を支えてきた担い手が、今は非常に不足しています。民生児童委員や社会福祉協議会などの活動はありますが、これが大きな課題となっており、現在策定中の地域福祉計画の中で、対応策について議論を始めているところです。 全てをボランティアの方々に任せるのは、現実的に厳しくなってきました。行政としても支援の強化が必要だと考えています。また、DXやAIなどのテクノロジーの活用も重要です。 印西市に限らず、地域の「横のつながり」が希薄になっている現状があります。地域にはさまざまな活動をしてくださっている方々がいますが、そうした方々が連携しながら高齢者支援を進めていく「重層的支援」の体制が、まだ十分に整っていません。 この点については、福祉部とも連携しながら議論を進めており、今日いただいたご意見も市役所内でしっかり共有させていただきます。	—	社会福祉課 高齢者福祉課
健康・福祉	14	障がい者福祉サービスについて	共通	うちの子は成人しており、車いすを使用しています。今日は手動の車いすで来ましたが、遠距離や高低差のある場所では電動車いすを使いたいという希望があります。ただ、印西市では1人につき1種類の車いすしか認められておらず、もう1台必要な場合は自費で購入するしかありません。 もちろん、全てを補助してほしいというわけではありませんが、「1台だけで過ごしてください」という制度は、実情に合っていないと感じます。たとえば、自宅では杖で移動できるけれど外出時は車いすが必要な方など、状況に応じて複数の補助器具を使い分けられるような制度にしていきたいです。 私たちは「バリアフリーで障がい者に優しいまち」という印象を持って印西市（旧印旛村）に引っ越してきましたが、実際には医療機関や行政との連携が不十分で、リハビリや福祉サービスの利用に苦労しました。今後は、そうした面でももう少し手を差し伸べていただけるよう、改善をお願いしたいと思います。	今いただいたご意見は非常に貴重だと感じています。現在、障がい団体の方々とグループ対話を進めている中でも、近隣市と比べて印西市の支援が遅れているという声をよく聞いています。 そのため、改めて制度の精査を行い、必要な支援や新しい制度の導入について検討を進めているところです。 また、もし可能であれば、この会の終了後に職員へ、現在どのような点で困りなのか、また先程お話にあった日本医科大学との連携について、具体的に「こういう連携があれば助かる」といったご意見をお聞かせいただけるとありがたいです。 私たちも、印西市になってから日医大との連携が十分に取れていないことを課題として認識しています。ぜひ、今後の改善に向けて参考にさせていただきたいと思います。	—	障がい福祉課
健康・福祉	15	障がい者福祉サービスについて	共通	グループホームやナーシングホームについてですが、現在整備は進んでいるものの、制度としてはまだ使いやすいたとは言えません。私自身はこれまで自分たちで道を切り開いてきたつもりですが、市との連携が十分に取れておらず、次世代に向けた仕組みづくりができていないのが現状です。今後は、可能であれば市と連携しながら、より良い制度や支援体制を築いていければと考えています。		—	障がい福祉課
まちづくり	16	街路樹の整備について	印旛	日本医大駅から印旛中学校までの通学路についてです。この区間には街路樹がほとんどなく、夏場は日陰がまったくなくため、子どもたちが灼熱の中を登校している様子を見ると非常に気の毒に感じます。早急に対策を講じる必要があるのではないかと考えています。	街路樹については、桜を希望される声もある一方で、虫が湧くなど生活導線上での懸念も寄せられており、慎重に検討していきたいと思います。	—	土木管理課 道路建設課
まちづくり	17	464号のポイ捨てについて	共通	ごみのポイ捨ての問題です。464号の下の方、特に成田方面から白井方面にかけての区間がひどく、印西牧の原の上り口付近が最も目立ちます。夜間や早朝にトラックが通っている様子もあり、原因の一端かもしれません。ポイ捨て禁止の看板も破損したまま放置されており、改善が求められます。	464号線のごみ問題については、少し事情がありまして、あの道路は県が管理している国道です。市としても県に対して改善を求めているところですが、なかなかすぐに対応できない部分もあります。県とも協議を重ねながら、市としてできることを検討していきたいと思います。	—	クリーン推進課